News Release

National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構
法人番号　9011005001123

2026年8月27日

事例から学ぶ、地震後の電気・ガスによる二次被害

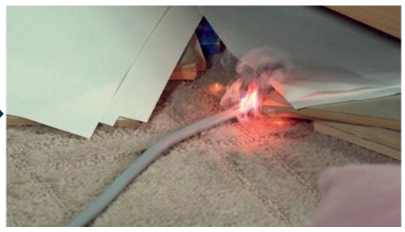
～通電火災・ガス事故を防ぐチェックポイント～

東日本大震災(2011年)以降も、熊本地震（2016年）、北海道胆振東部地震（2018年）、能登半島地震（2024年）、熊本地震（2026年）など大規模な地震が発生しています。

過去の震災では、地震そのものによる被害だけではなく、電気製品やガス機器等による事故も発生しており、注意が必要です。

そこで、独立行政法人製品評価技術基盤機構［NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原］は、地震発生時や復旧時の製品事故を防ぐためのポイントを紹介します。

電源コードが下敷きになっている様子



断線した電源コードから発火

電源コードからの発火による火災

震災時の製品事故は、主に「地震発生直後」と「復旧時」に発生します。

自然災害の発生時には、揺れや浸水による直接的な被害に加え、その後の電気やガスの復旧に伴う「二次被害」が大きな懸念となります。電気の復旧では、損傷や浸水した配線器具や電気製品による通電火災、ガスの復旧では、損傷や変形が生じたガス供給器具からのガス漏れ・引火などによる重大な事故につながるおそれがあります。

自然災害は突然襲ってきます。災害時には、まず身の安全を最優先に行動することが重要ですが、製品事故による二次被害を防ぐために、日頃から地震発生時や復旧時の注意点を確認し、災害に備えましょう。

■日頃から気を付けるポイント

〇電源プラグ及び電源タップは小まめに掃除し、水分がかからないようにする。
〇電源プラグが変形していないか確認する。
〇電源コードを引っ張る、机や椅子の脚で踏むなど、無理な力が加わっていないか確認する。
〇ガスコードのソケットは、ゴミなどが付着していないことを確認し、カチッという音がするまでしっかりと差し込んだ上で簡単に外れないことを確認する。
〇ガス栓を開けるときは、ガス栓からガス機器までしっかりと接続されていることを確認する。
〇「家具を固定する」「暖房器具の周囲に可燃物を置かない」「感震ブレーカー[※1]を取り付ける」など、地震発生時に製品事故が生じないよう備える。

■地震発生時に気を付けるポイント（※身の安全を最優先に）

〇揺れが収まったら、ガス機器の火を消す。自宅から避難する際に余裕があればガスの元栓を閉める。
〇揺れが収まったら、電気製品の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。避難する場合は、ブレーカーを切る（OFFにする）。

■復旧時に気を付けるポイント

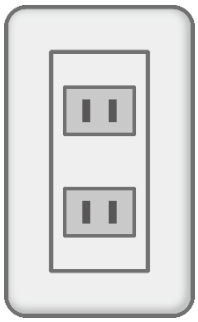
〇ブレーカーが切れていることを確認する。
〇製品が損傷したり水没したりしていないか、動作に異常がないかを慎重に確認する。

（※）　本資料中のすべての写真は、実際の事故とは関係ありません。
（※1）本資料中では、感震機能付きの分電盤タイプのほか、コンセントタイプや簡易タイプも含めて「感震ブレーカー」と呼びます。（タイプの詳細は別紙1参照）

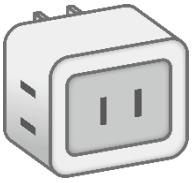
対象製品および各部名称（配線器具）

対象製品

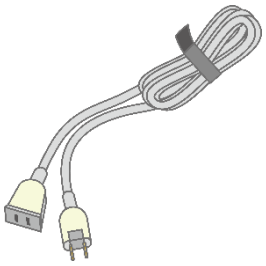
コンセント



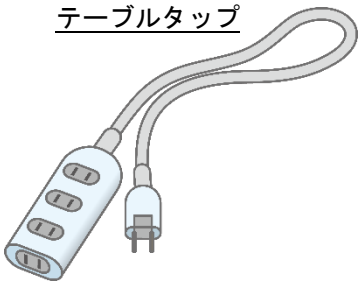
マルチタップ



延長コード

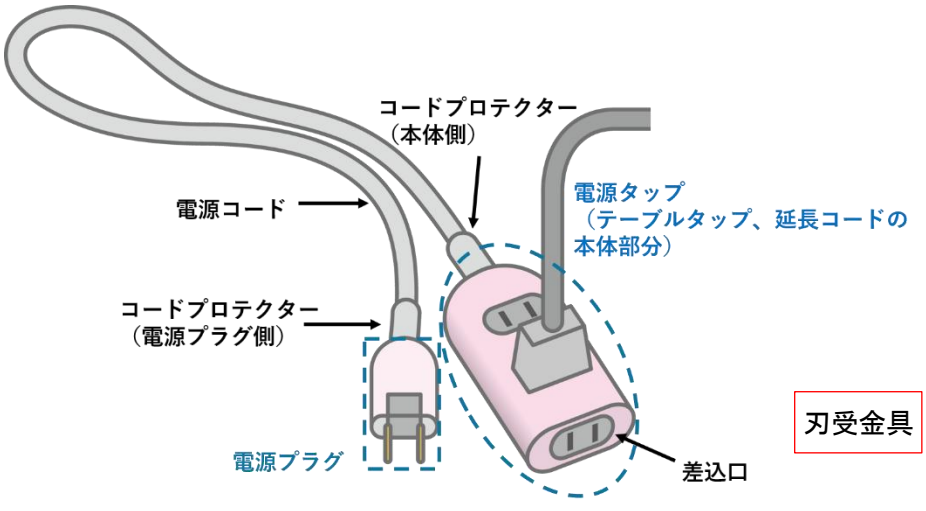


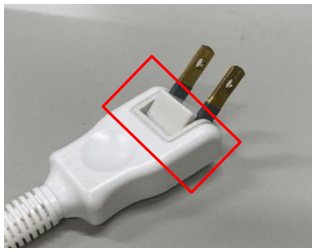
テーブルタップ



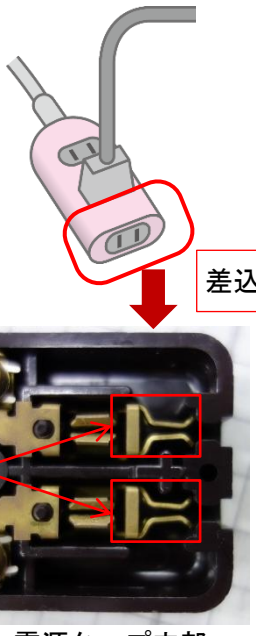
マルチタップ　：電源プラグから差込口までが延長されておらず、複数の差込口を有するもの
延長コード　　：電源プラグから差込口までが延長されており、差込口が一口のもの
テーブルタップ：電源プラグから差込口までが延長されており、複数の差込口を有するもの

各部名称





電源プラグ栓刃可動部（例）



電源タップ内部

対象製品（ガス供給器具）

ガス栓

ガス栓

バネガス栓※2

ガスコンセント

ゴム管・ガスコード

都市ガス用ゴム管（ベージュ）

LP ガス用ゴム管（オレンジ）

ガスコード

ソケット

ガス栓用
プラグ

ゴム管用
ソケット

ゴム管

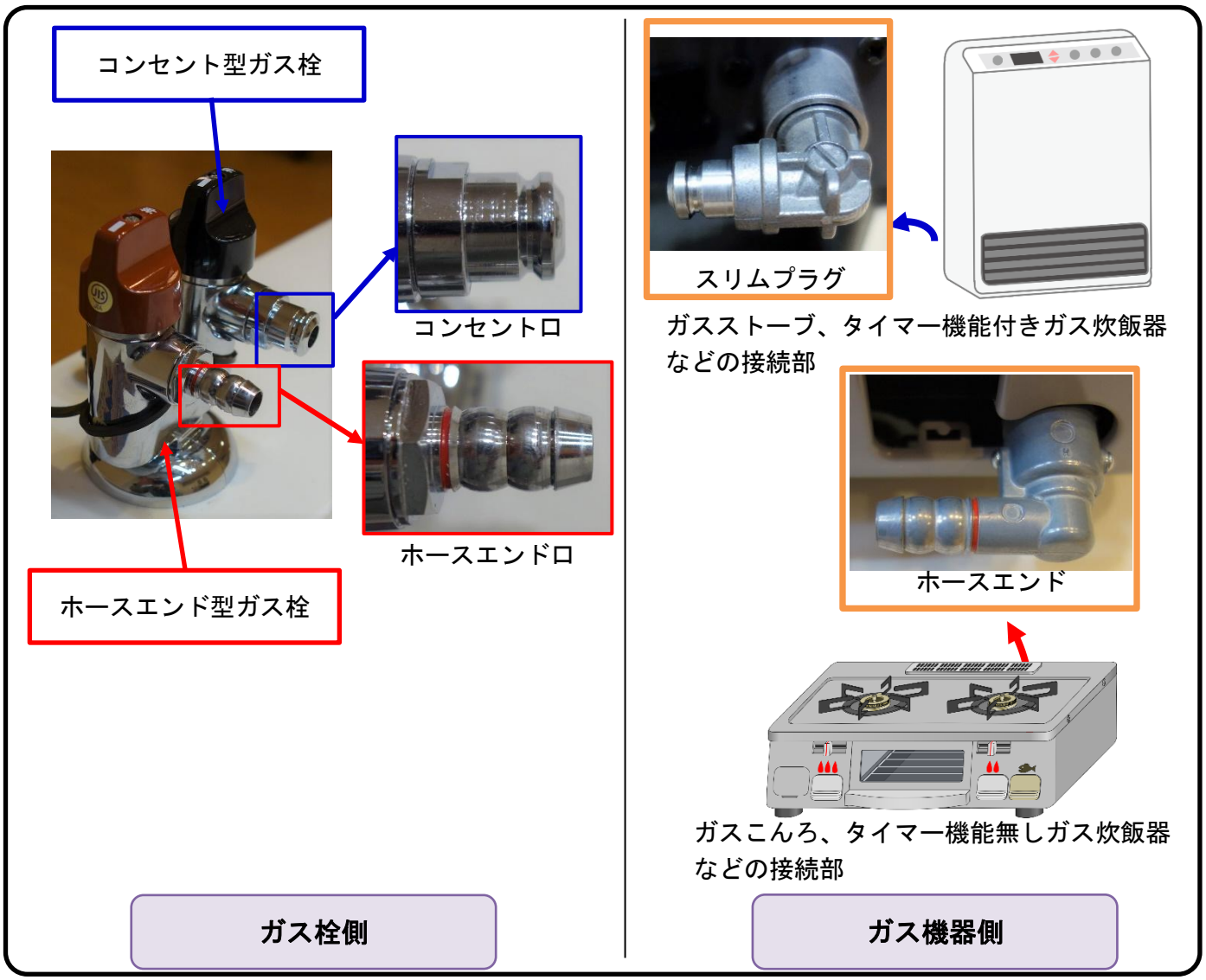
ゴム管用
プラグ

ガス機器用
ソケット

ガス機器用
プラグ

（※2） ＬＰガス用バネガス栓は、現在使用が禁止されています。都市ガス用バネガス栓は、新規設置が禁止されています。

ガス栓及びガス機器の各部の名称



ガスの種類

ガスには、ＬＰガス（プロパンガス）と都市ガスがあります。ガス機器やゴム管は、ガスの種類に合わせ適切なものを使用してください。※3

	ＬＰガス（プロパンガス）	都市ガス
性質	空気より重い。ガスが漏れた場合、低い場所にたまっていく。	空気より軽い。ガスが漏れた場合、高い場所（天井の方）にたまっていく。
供給方法	ガスの入ったボンベを事業者が配送する。	ガス管を通じて供給される。

（※3）ＬＰガス、都市ガス共に本来は無色・無臭だが、ガス漏れ時にすぐに気が付くよう臭い（石油や腐った玉ネギのような臭いなど）をつけてある。

1.事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2021 年から 2025 年までの 5 年間に発生した配線器具の事故 166 件※4 及びガス供給器具の事故 156 件※4 について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別の事故発生件数

【配線器具】

配線器具の事故 166 件について、年別の事故発生件数を図 1 に示します。配線器具の事故は、2023 年の 38 件をピークに 30 件程度で推移しています。

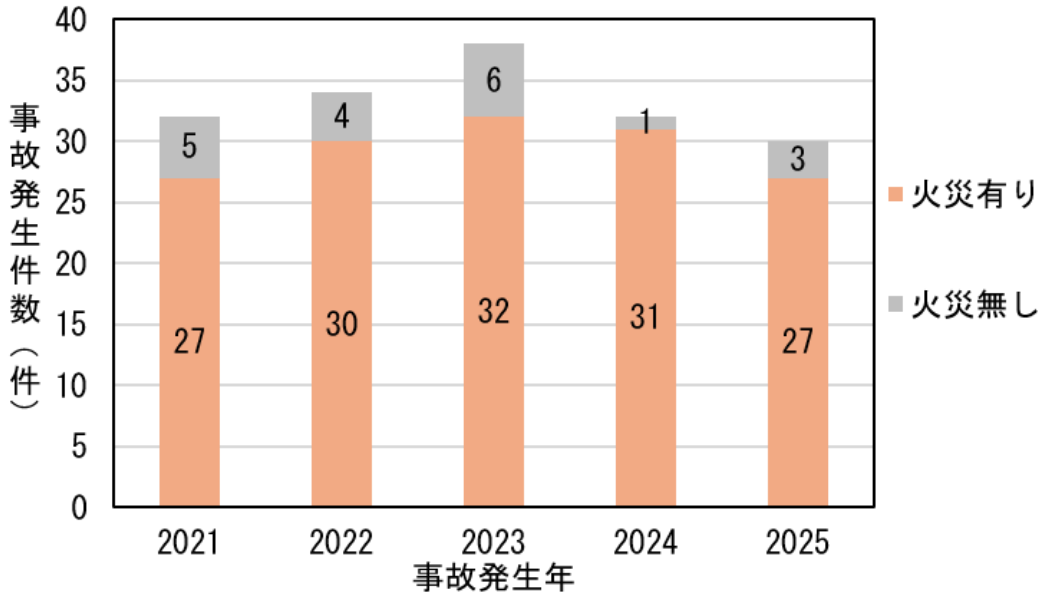


図 1　年別の事故発生件数（配線器具）

【ガス供給器具】

ガス供給器具の事故 156 件について、年別の事故発生件数を図 2 に示します。ガス供給器具の事故は、2022 年の 48 件をピークに減少傾向で推移しています。

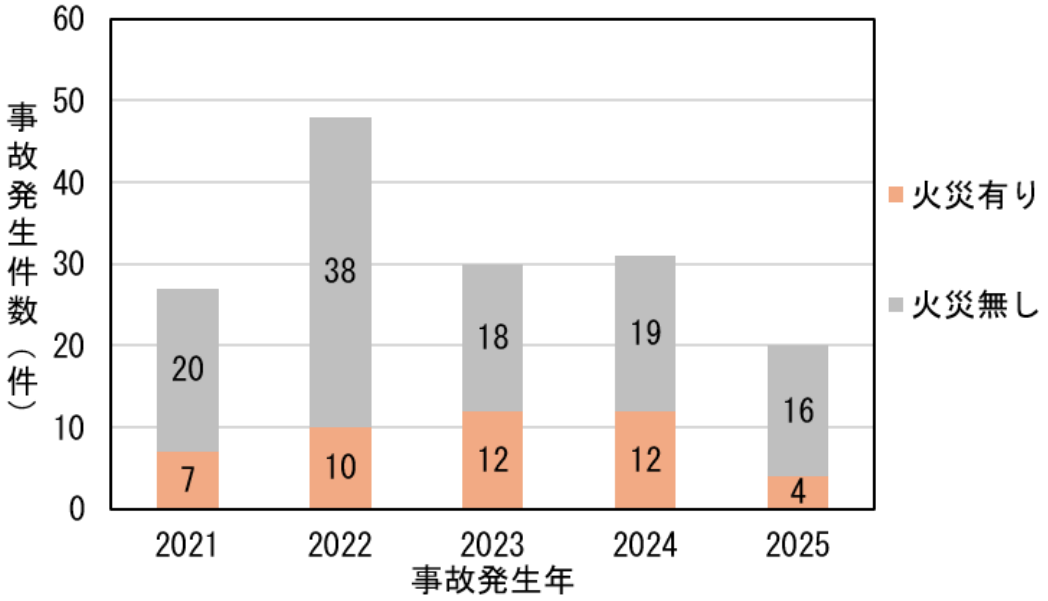


図 2　年別の事故発生件数（ガス供給器具）

（※4）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

1-2. 事故の被害状況

【配線器具】

配線器具の事故 166 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。製品被害だけでなく、火災が発生したことによって死亡事故などの人的被害も発生しています。また、火災事故は 166 件中 147 件で事故の約 9 割を占めています。

表 1 被害状況別の事故件数（配線器具）※5

被害状況		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	総計
人的被害	死亡				2（2）		2（2）
	重傷						0
	軽傷	3（3）		1（1）		3（6）	7（10）
物的被害	拡大被害※6	24	25	25	21	21	116
	製品破損	5	9	12	9	6	41
被害なし・不明							0
総計		32（3）	34	38（1）	32（2）	30（6）	166（12）
うち火災件数		27	30	32	31	27	147

（※5）()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

（※6）製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

【ガス供給器具】

ガス供給器具の事故 156 件における被害状況別の事故件数を表 2 に示します。製品被害だけでなく、火災が発生したことによって死亡事故などの人的被害も発生しています。また、周囲への拡大被害が多く発生しています。

表 2 被害状況別の事故件数（ガス供給器具）※5

被害状況		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	総計
人的被害	死亡		1（2）	1（1）	1（1）		3（4）
	重傷			1（1）			1（1）
	軽傷	2（2）	1(1)	1（1）	1（1）	1（1）	6（6）
物的被害	拡大被害※6	12	27	16	19	9	83
	製品破損	12	19	10	7	10	58
被害なし・不明		1		1	3		5
総計		27（2）	48（3）	30（3）	31（2）	20（1）	156（11）
うち火災件数		7	10	12	12	4	45

（※5）()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

（※6）製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-3. 原因別の事故発生件数

【配線器具】

調査中の案件を除いた 131 件の配線器具の事故について、原因別の事故発生件数を図 3 に示します。「使い方や設置状況が関係するもの※7」の占める割合が大きく、日頃使用する上で気を付ける必要があります。

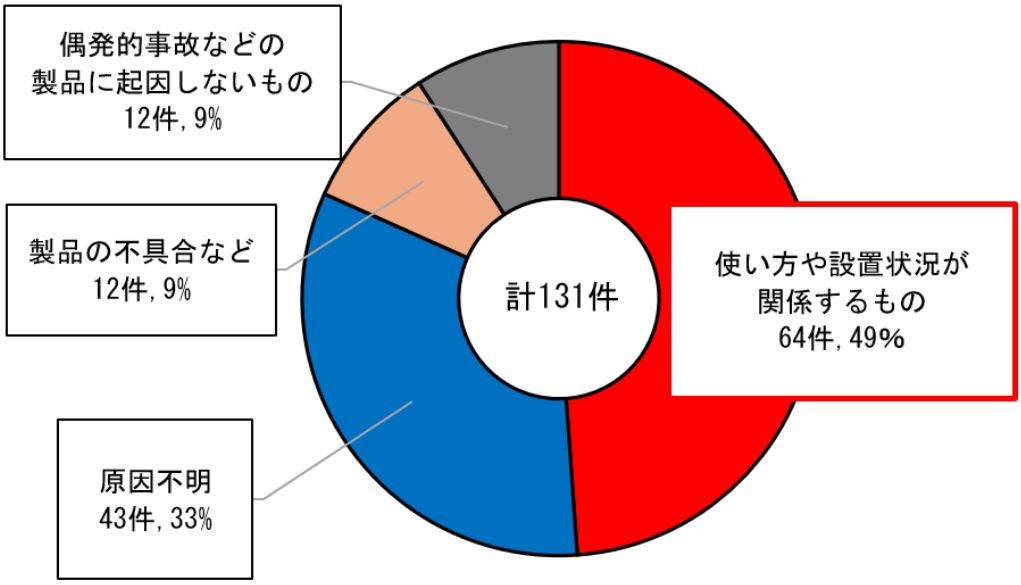


図 3　原因別の事故発生件数（配線器具）

（※7）事故原因の特定までには至っていないが、使い方や設置状況が要因の一つとして推定される事故も含む。

【ガス供給器具】

調査中の案件を除いた 143 件のガス供給器具の事故について、原因別の事故発生件数を図 4 に示します。「誤使用や不注意による事故」の占める割合が大きく、日頃使用する上で気を付ける必要があります。

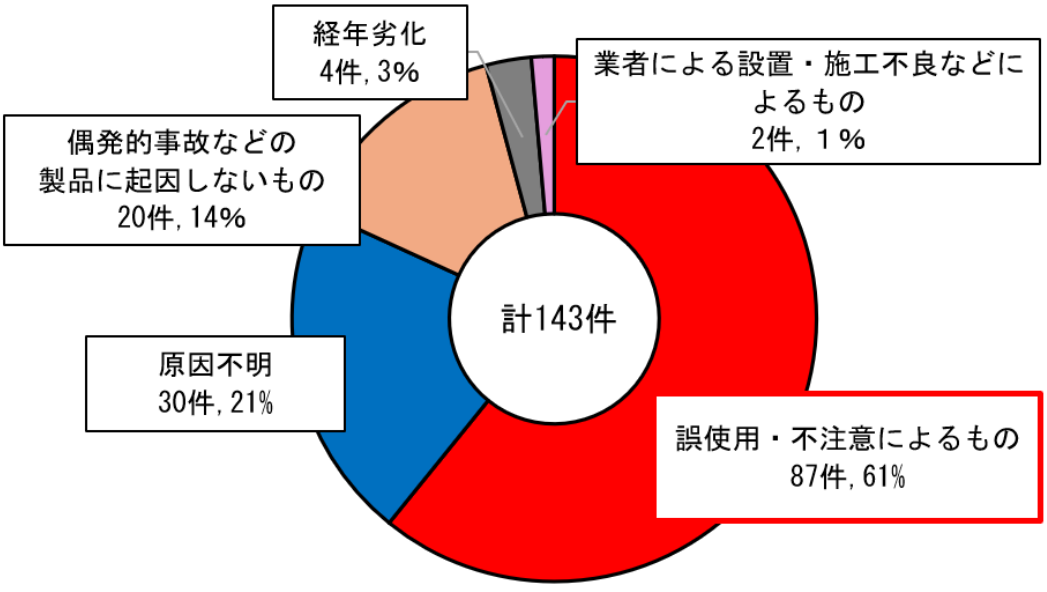


図 4　原因別の事故発生件数（ガス供給器具）

1-4. 使い方や設置状況が関係する事故の事象

【配線器具】

配線器具の事故における「使い方や設置状況が関係するもの」に該当する 64 件について、事故事象別の被害状況を表 3 に示します。ほこり、水分の付着や液体などの浸入が要因の事故、外から力が加わるなどで電源プラグ栓刃と刃受金具との接触不良が要因となっている事故が多く発生しています。このような事故は日頃からの製品の手入れ、扱い方に注意をしていれば防ぐことができた可能性が高い事故です。

表 3　使い方や設置状況が関係する事故の事象別の被害状況（配線器具）

事故事象	人的被害			物的被害		総計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	
ほこり、水分の付着や液体などの浸入でトラッキング現象が発生して異常発熱			1	19	2	22
外から力が加わるなどで電源プラグ栓刃と刃受金具との接触不良が生じて異常発熱			1	12	3	16
外から力が加わるなどで電源プラグ栓刃可動部に接触不良が生じて発火				10	1	11
最大消費電力を超える電気製品を接続して異常発熱				3	2	5
外から力が加わるなどで電源コードやコードプロテクター部が断線してショート			1	2	2	5
その他	1			1	3	5

【ガス供給器具】

ガス供給器具の事故における「誤使用や不注意による事故」に該当する 87 件について、事故事象別の被害状況を表 4 に示します。ガス供給器具が接続不良、未使用栓の誤開放による事故が多く発生しており、このような事故は日頃の点検、使用前の確認により防ぐことができた可能性が高い事故です。

表 4　誤使用や不注意による事故の事象別の被害状況（ガス供給器具）

事故事象	人的被害			物的被害		被害なし・不明	総計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
ガス供給器具が接続不良となり、ガス漏れし引火				24	28	2	54
未使用栓の誤開放により、ガス漏れし引火			2	22	3	1	28
ガス機器などによる熱影響や炎で、ガス供給器具の劣化や損傷が起き、ガス漏れし引火				1	2		3
その他			1		1		2

２.事故事例

以下の事例は平常時の事故ですが、地震による揺れや製品の損傷によっても同様の事故が発生するおそれがあります。

2-1. 配線器具の事故事例

地震の揺れで家具や家電が移動・転倒し、電源コードが損傷・断線することがあります。また、地震の揺れで電源プラグに強い力が加わることで電源プラグが変形してしまうおそれがあります。その状態に気付かないまま停電復旧後に通電することで火災に至るおそれがあります。

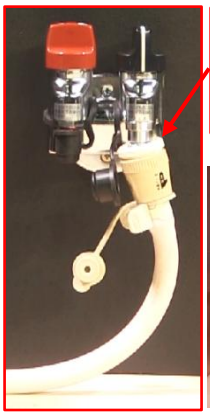
■テーブルタップ（外から力が加わるなどでコードプロテクター部が断線してショート）
事故発生年月　2023 年 11 月（兵庫県、20 歳代・女性・軽傷）
【事故の内容】
テーブルタップにドライヤーを接続して使用後、異音と異臭がしたため確認すると、テーブルタップ及び周辺を焼損する火災が発生しており、1 名が火傷を負った。
【事故の原因】
事故発生の 1 週間程前から、ドライヤーの電源プラグを抜く際、テーブルタップのマルチタップ部やコードに発熱が認められるようになった。
詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、テーブルタップのコードプロテクター部に過度な外力が加わり、芯線が半断線したため、異常発熱し出火に至ったものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
テーブルタップ　半断線

■延長コード（外力が加わり、電源プラグ栓刃可動部に接触不良が生じて発火）
事故発生年月　2025 年 2 月（和歌山県、年齢・性別不明、拡大被害）
【事故の内容】
延長コードのプラグ部を焼損する火災が発生した。
【事故の原因】
延長コードは居室の引き戸と天井の間に設置された露出コンセントに差し込まれて使用されており、延長コードが宙づりの状態で電気掃除機等を接続して使用されていた。詳細な使用状況等が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、延長コードの可動栓刃に外力が加わったため、カシメ部が緩み接触不良が生じて異常発熱し、焼損したものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
延長コード　外力　異常発熱

2-2. ガス供給器具の事故事例

地震の揺れや機器の移動によって迅速継手に無理な力が加わり、接続部に緩みや接触不良が生じることがあります。そのままガスの使用を再開すると、ガス漏れに至るおそれがあります。また、地震後の復旧作業や機器の再接続時に、誤って未使用のガス栓を開放してしまうことがあります。漏えいしたガスに着火すると、爆発・火災に至るおそれがあります。

■迅速継手（接続不良によるガス漏れ）
事故発生年月日　2025 年 3 月（群馬県、年齢・性別不明、拡大被害）
【事故の内容】
ガスこんろを使用中、ガス栓付近から火が出て、周辺を焼損した。
【事故の原因】
迅速継手からのガス漏れ等の異常はなく、摺動環が縮んだまま焦げていることから、ガス栓への接続が不完全な状態で使用されたと考えられ、接続部からガスが漏れ、滞留した未燃ガスにガスこんろの火が引火したものと推定される。
なお、取扱説明書には、「本品とプラグの接続はカチッと音がするまで差し込む。」旨、記載されている。



はまっていないソケットが引っかかっている様子

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
迅速継手　ガス漏れ　接続が不完全

■ガス栓（未使用栓の誤開放）
事故発生年月日　2025 年 7 月（神奈川県、年齢不明・女性、軽傷）
【事故の内容】
ガス給湯器を点火したところ、ガス栓付近から火が出て、周辺を焼損し、腕に火傷を負った。
【事故の原因】
１口のヒューズ付きガス栓で、被害者が未使用のガス栓を誤って開放したため、装着されていたゴムキャップの隙間から過流出安全機構の作動流量以下の微量なガスが漏れ、滞留した未燃ガスにガス給湯器の火が引火したものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
ガス栓　誤って開放

３．気を付けるポイント

3-1. 日頃から気を付けるポイント

以下の内容は、災害時に製品事故の発生リスクを高めるおそれがあることから、日頃から気を付けていただきたいポイントです。平常時から適切な点検・管理を行い、安全な使用環境を維持しましょう。

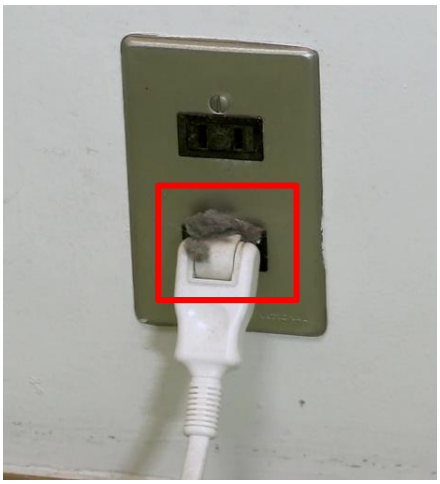
日頃から気を付けるポイント

【配線器具】

〇電源プラグ及び電源タップは小まめに掃除し、水分がかからないようにする。

電源プラグは、コンセントや電源タップとの間に隙間が生じないよう、奥までしっかり差し込み、定期的に掃除してほこりを取り除いてください。電源プラグが十分に差し込まれておらず、コンセントや電源タップとの間に隙間がある状態で使用を続けると、隙間にたまったほこりに水分が付着したり、内部に水分が浸入したりして、ショートやトラッキング現象が生じるおそれがあります。

掃除の際は、必ずコンセントや電源タップから電源プラグを抜き、乾いた布でほこりや汚れを取り除いてください。コンセントや電源タップの差込口にアルコールスプレー等の洗浄液が直接かかると、ショートやトラッキング現象が生じるおそれがあります。



コンセントに差し込んだプラグの周辺にほこりがたまっている様子

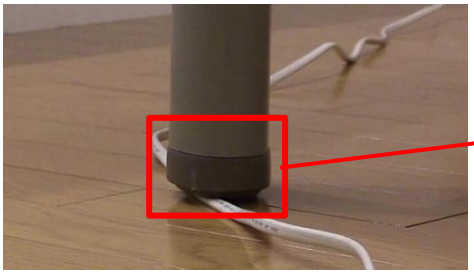
〇電源プラグが変形していないか確認する。

電源プラグが変形した状態で使用すると、コンセントの刃受金具と正常に接触せず、異常発熱や発火に至るおそれがあります。テーブルタップを踏みつけてしまったり、コンセントから力任せに引き抜いてしまったりした際に電源プラグは変形します。設置場所や抜き差しに注意してください。電源プラグが変形した場合は使用を中止し、メーカーや販売店にご相談ください。

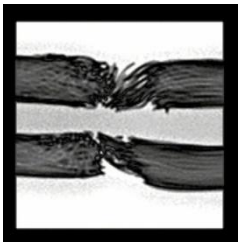
変形した電源プラグ

〇電源コードを引っ張る、机や椅子の脚で踏むなど、無理な力が加わっていないか確認する。

延長コードやテーブルタップの電源コードを折り曲げる、踏みつける、引っ張るといった、外部から電源コードに無理な力が加わる使い方をすると、電源コードの芯線が断線して、異常発熱や発火に至るおそれがあります。机や椅子の脚などでコードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないよう、配線は設置状況に注意し、電源プラグは電源コードではなくプラグ本体を持って抜き差ししてください。



電源コードを踏みつけている様子



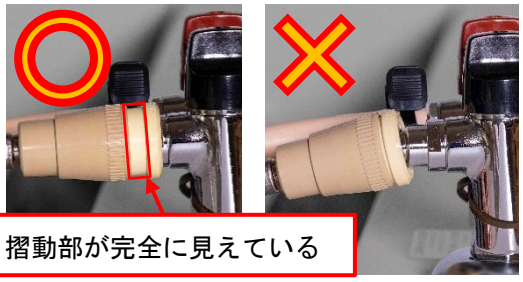
電源コード内部の芯線が半断線している様子
（X 線写真）

【ガス供給器具】

〇ガスコードのソケットは、ゴミなどが付着していないことを確認し、カチッという音がするまでしっかりと差し込んだ上で簡単に外れないことを確認する。

接続する前にソケットやプラグにゴミなどが付着していないかを確認してください。ゴミなどをかみ込むとガス漏れ、火災の原因となるおそれがあるため、使用前には必ず確認してください。

ソケットは、カチッと音がするのを確認するとともにゴム管を軽く引っ張るなどして外れないことを確認してください。



ソケット接続時の確認ポイント

より接続が分かりやすいタイプのソケットの例

〇ガス栓を開けるときは、ガス栓からガス機器までしっかりと接続されていることを確認する。

ガス栓を開くときは、ガス栓からガス機器まで接続されていることを確認してから、ガス栓のつまみを全開にしてください。

誤開放を防ぐために、未使用栓のつまみにはガス栓カバーや誤操作防止キャップを取り付ける対策を行ってください。また、未使用栓の出口には必ずガス栓キャップをかぶせてください。

ガス栓カバーや誤操作防止キャップの入手については、契約しているガス事業者に問い合わせてください。

ガス栓カバー　誤操作防止キャップ

ガス栓カバー取付けの例

ガス栓キャップ※8（ホースエンド口用）

ガス栓キャップ※8（コンセント口

（※8）ガス栓キャップは、ガス栓口に傷が付いたり異物が付着するのを防ぐためのものです。ガス漏れを防ぐものではありません。

【製品一般共通】

○「家具を固定する」「暖房器具の周囲に可燃物を置かない」「感震ブレーカーを取り付ける」など、地震発生時に製品事故が生じないように備える。

地震が発生した時に棚などから物が落下したり、棚そのものが倒れたりするおそれがあるため、家具はできるだけ壁に固定してください。あわせて、電気ストーブ等の暖房器具を使用する際は、周囲の棚や衣類などから離して設置するようにしてください。地震時に物が飛散した場合、万一そばに火元があると、可燃物が接触して火災につながるおそれがあります。日頃から、電気製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておくように心掛けることも大切です。

また、電気製品の周囲には、花瓶や水槽などの水気のあるものは置かないように注意してください。地震が起きたとき、水がこぼれて電気製品の内部に浸入し、ショートして発火するおそれがあります。

地震の揺れで電気ストーブに可燃物が接触

近年の大規模地震発生時には電気に起因する火災が多く発生しており、東日本大震災では半数以上が電気関係※9、能登半島地震の輪島市大規模火災においても電気に起因した可能性があるとの調査結果※10があります。地震発生時に外出していたり、避難時にブレーカーを切る余裕がなかったりする場合でも、揺れを感知すると自動でブレーカーを切る機能をもった「感震ブレーカー」という機器があります。こういった機器を設置しておくことも事故を防ぐ有効な手段になります。（別紙１参照）

（※9）出典：総務省消防庁ホームページ　令和６年版 消防白書 感震ブレーカーの普及推進
https://www.fdma.go.jp/publication/hakusho/r6/topics/68739.html

（※10）出典：総務省消防庁 消防大学校 消防研究センター 「令和 6 年能登半島地震において発生した輪島市大規模火災における消防庁長官の火災原因調査報告書＜概要版＞」
https://nrifd.fdma.go.jp/research/saigai_chousa_shien/notohantou_jishin/files/20240605_1.pdf

3-2. 地震発生時に気を付けるポイント（※身の安全を最優先に）

地震発生時にはまずは身の安全を確保してください。以下の内容は、地震発生後の二次被害に伴う製品事故を防ぐために気を付けていただきたいポイントです。

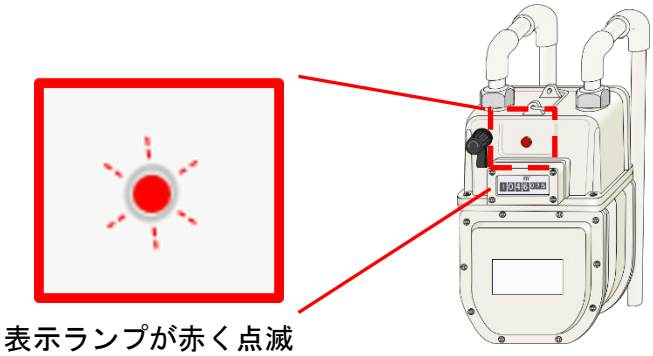
地震発生時に気を付けるポイント（※身の安全を最優先に）

○揺れが収まったら、ガス機器の火を消す。
自宅から避難する際に余裕があればガスの元栓を閉める。

ガス機器については、震度 5 程度以上の揺れを感知するとガスメーター（マイコンメーター）が自動的にガスを遮断します。

しかし、もし使用していたガスこんろ等の火が付いている場合は、やけどしないよう慌てず火を消してください。また、自宅から避難する際に余裕があれば、ガスの元栓を閉めてください。

なお、ガスのにおいがしたら、引火するおそれがあるため、火を付けたり換気扇や電気のスイッチ等に触れたりすることは絶対に避け、窓や戸を開けて換気してください。地震時に慌てず素早く対応できるように、普段から分電盤やガスの元栓がどこにあるのか、どのように操作するのかを確認しておきましょう。



揺れを感知してガスを遮断したマイコンメーターのイメージ

〇揺れが収まったら、電気製品の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。ブレーカーを切る（OFF にする）。

電気製品の意図しない作動や復旧時の通電火災等を防ぐため、その場の状況に応じて、できる範囲で以下の対応をお願いします。

- 使用している電気製品（特に、ヒーターを内蔵した電気こんろや電気ストーブなどの電熱器具）のスイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜く。
- 懐中電灯等で明かりを確保した上で分電盤のブレーカーを切る。

特に、自宅から避難する際には、分電盤のブレーカーは切るようにしてください。

製品が転倒/転落した衝撃や落下物との接触等によって意図せず電源が入ったり、停電から復旧したりする際、電熱器具等に可燃物が接触した状態で通電してしまうと火災につながるおそれがあります。また、製品本体や電源プラグ、電源コードが震災により損傷している場合、故障した製品に通電された際に火災になる可能性もあります。

避難時に停電や製品の損傷等がなかったとしても、その後の余震で同様の状況になる可能性があるので注意してください。

避難する際は分電盤のブレーカーを切る

3-3. 復旧時に気を付けるポイント

以下の内容は、地震後に電気製品やガス機器の使用を再開する際の製品事故を防止するために気を付けていただきたいポイントです。地震による損傷や浸水の有無を十分に確認し、安全を確保した上で使用を再開してください。

復旧時に気を付けるポイント

〇ブレーカーが切れていることを確認する。

通電火災を防ぐため、停電復旧前に分電盤のブレーカーが切れていることを確認してください。もし、地震発生時に家に居なかった、避難時に余裕がなかった等で、分電盤のブレーカーを切っていなかった場合、帰宅時にまずブレーカーを切るとともに、機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。（詳細は 14 ページ目を参照）

〇製品が損傷したり水没したりしていないか、動作に異常がないかを慎重に確認する。

地震やそれに伴う津波によって、損傷・浸水した電気製品やガス・石油機器は、そのまま使用しないでください。内部に水が残っていたり、水に混ざった泥や塩分などの異物が内部に浸入して付着したりすると、使用再開時に火災や不完全燃焼を引き起こすおそれがあります。メーカーや販売店に相談し、点検や修理等を受けるようにしてください。

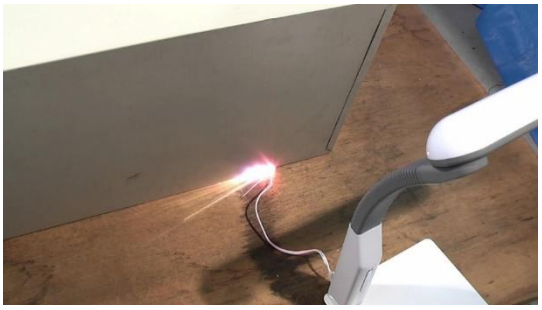
水に浸かった電気製品のイメージ

浸水を免れた製品を使う際は、機器などの外観に異常がないか（電源プラグやコードに損傷はないか、製品に焦げた痕はないか、落下して破損していないか、など）を確認してください。外観に異常がなければ、分電盤のブレーカーを入れ、機器の電源プラグを１台ずつコンセントに差し、様子を確認しながら使用してください。

もし、エラー表示が出る場合は、取扱説明書でエラーの内容を確認し、メーカーや販売店に連絡する等の適切な対応をしてください。決してエラー表示を無視して使い続けないでください。

動作の異常や異音、異臭がする場合は、直ちに使用を中止し、メーカーや販売店に相談してください。

変形した電源プラグは使用しない



転倒したロッカーが電源コードを破損して発火

事故事例・リコール情報を確認

〇過去に発生した事故情報、リコール情報を確認する。

【NITE SAFE-Lite（ナイト　セーフ・ライト）のご紹介】

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト　セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索すると、類似した事故が表示されます。

https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html

【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。

https://www.recall.caa.go.jp/

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構　製品安全センター　所長　川崎 裕之

担当者　製品安全広報課　山副　敦司、藤原　翔吾

Mail　：ps@nite.go.jp

Tel　：06-6612-2066

（別紙１）

参考情報

● 感震ブレーカーについて

地震発生時（震度５強相当）の揺れを感知して通電を遮断する機能を有する機器として、「感震ブレーカー」があります。感震ブレーカーを設置することで、自宅不在時や分電盤のブレーカーを切って避難する余裕がない場合などでも通電が遮断されるため、電気製品による火災を防止するのに有効です。

内閣府、消防庁、経済産業省が連携して、感震ブレーカーの普及啓発に取り組んでおり、各都道府県や市区町村における感震ブレーカー普及の支援（機器設置費用の助成や機器の配布）も行われています。

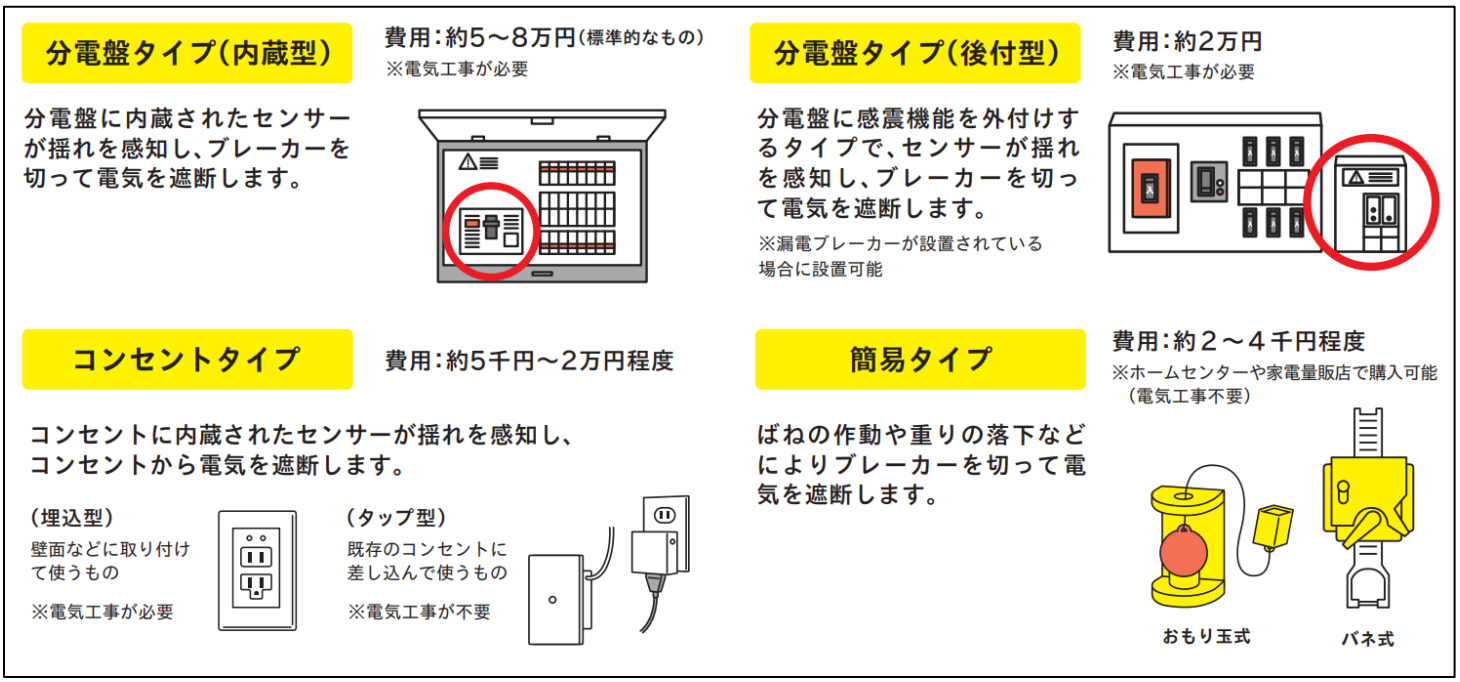


図　感震ブレーカーの種類

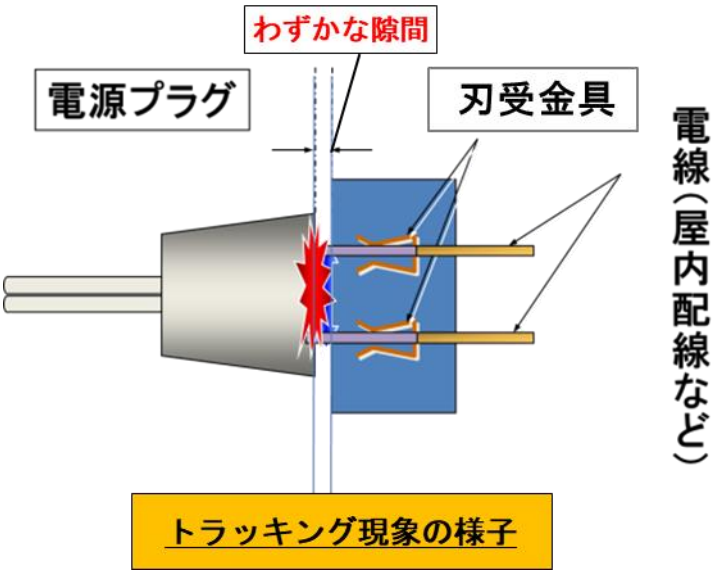
（図出典：経済産業省「感震ブレーカー普及啓発チラシ」から抜粋
https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/20190408-1.pdf）
（参照：経済産業省 HP「感震ブレーカーの普及啓発」
https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html）

ご自宅に設置された分電盤などが感震ブレーカーかどうかの目安として、機能を有する機器には「感震ブレーカー」、「感震機能」、「感震センサー」等の表記があります。表記が見当たらず感震ブレーカーなのか不明な場合は、機器の型番を検索したり、メーカーに問い合わせたりする等して確認してください。

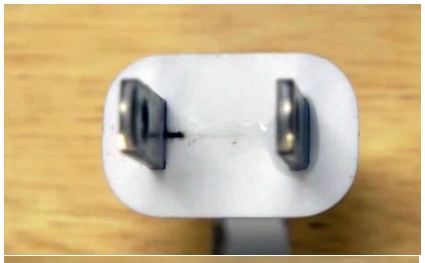
（別紙２）

トラッキング現象について

コンセントや電源プラグの周囲、隙間や内部にほこりや水分が付着した状態で使用すると、付着したほこりと水分によって電源プラグ栓刃の間等に微弱な電流が流れる状態となり、火花放電が繰り返されます。その結果、絶縁の役割を果たしている樹脂部分が徐々に炭化していき、トラック（電気の通り道）が生成されて異常発熱し、発火へと至ります。この現象を「トラッキング現象」といいます。



〇トラッキング現象の発生メカニズム（トラックが成長する過程（再現実験））



ほこり、水分などの付着によって
プラグ栓刃間で火花放電が発生。

繰り返し火花放電が発生し、
プラグ栓刃間が炭化する。

炭化によって電気抵抗が低下し、
プラグ栓刃間がショートし発火する。

〇参考情報

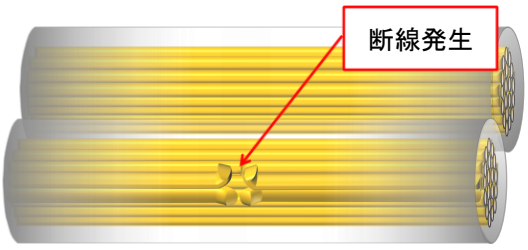
コンセント側でトラッキングを検知して電流を遮断する製品や水分などが内部に入りにくいようにシャッターが付いた製品なども販売されています。次回購入時の参考にしてください。

シャッター付き製品の例

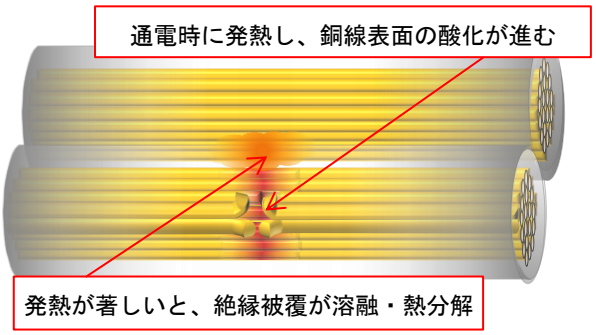
（別紙３）

電源コードの断線・発熱について

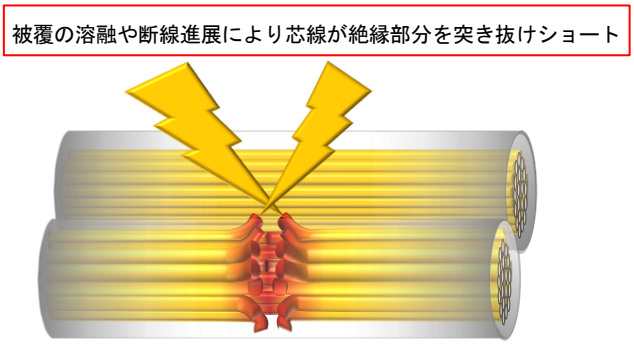
①　正常時の電源コード内部の様子
（※）コードの被覆部を透明にして、内部の芯線を見えるようにしている。



②　使用中の屈曲や引っ張りなどによって芯線の一部が断線した状態。このまま使用を続け、外から無理な力が加わると、断線箇所や断線本数が増える。



③　芯線が部分的に断線した電源コードに電流が流れると、断線部分では電流の通り道が細くなっているため、その部分で温度が上昇し、樹脂製の絶縁被覆が熱分解される。（コードの表面が熱で溶ける）



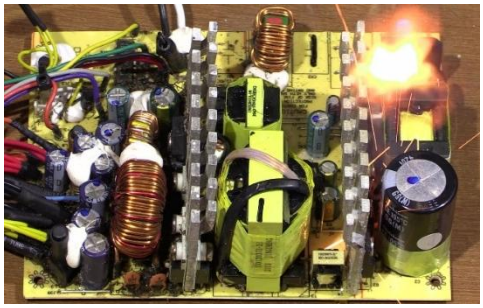
④　異常発熱によって、絶縁被覆が破壊され、そこに過負荷（大きすぎる電流）やコードを束ねて使用していたなどの条件が重なると、異極間の芯線が接触してショートする場合がある。

（別紙４）

水害に関する参考情報

災害による、雨漏り・浸水などで、水がかかったり水に浸かったりした家電製品は、内部に水が残っていたり、泥や塩分などの異物が付着していたりすることで、火災を引き起こすことがあります。そのまま使用せず、慎重に動作確認を行い、異常があった場合には、直ちに使用を中止し、メーカーや販売店にご相談ください。

■エアコン室外機（土砂や雨水などが浸入して発火した事故事例）
事故発生年月日　2011 年 2 月（奈良県、年齢性別不明、製品破損）
【事故の内容】
発煙及び異臭に気付き確認すると、エアコン室外機から出火する火災が発生しており、エアコン室外機が焼損した。
【事故の原因】
エアコン室外機の天面部が割れたまま放置されていたことから、割れ目から導電性物質を含む土砂と雨水が浸入し、制御基板のパターン間に付着してトラッキング現象が生じ、発火して火災に至ったものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
室外機　トラッキング現象


浸水した製品の発火（パソコンの基板）

■エアコン室外機（水没したことにより電子部品が劣化して発火した事故事例）
事故発生年月日　2001 年 7 月（愛知県、年齢性別不明、拡大被害）
【事故の内容】
エアコン冷房運転中に室外機から出火した。室外機が焼損し、周囲にあった塩化ビニル製のパイプに類焼した。
【事故の原因】
室外機が水没したことによりコンデンサのパッキンが劣化し、コンデンサ内部に水分が浸入したことにより発火したものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
室外機　水没

■ポータブル電源（リチウムイオン）（水没したことにより発火した事故事例）
事故発生年月日　2023 年 2 月（神奈川県、年齢性別不明、拡大被害）
【事故の内容】
火災報知器が鳴動したため確認すると、ポータブル電源及び周辺を焼損する火災が発生していた。
【事故の原因】
ポータブル電源が水没状態になったため、製品内部に浸入した水分の影響によりバッテリー部付近で異常発熱して出火したものと推定される。なお、取扱説明書及び本体表示には、「火災の原因になるため、水等の液体を入れたり、ぬらさない。」旨、記載されている。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
ポータブル電源　水没

（別紙５）

過去に発表したプレスリリース（関連テーマ）

〇2026 年 7 月 15 日発表資料
『夏バテ(夏のバッテリー)』にご注意を
～「リチウムイオン電池搭載製品」は３つのＣで事故を防ぎましょう！～

近年モバイルバッテリーを始めとしたリチウムイオン電池搭載製品での火災が増加していることを受けて、経済産業省や環境省等の関係省庁が連携し、リチウムイオン電池の「3 つの C」という呼びかけを行っています。

■リチウムイオン電池搭載製品の事故を防ぐ「3 つの C」

〇賢く選ぶ（Cool Choice）
・購入前に、販売事業者の連絡先や製品情報、リコール情報を確認する
・表示マークが適切か確認する など

〇丁寧に使う（Careful use）
・高温となる場所では使用・保管しない
・強い衝撃や圧力を加えない
・異常を感じた場合は使用を中止する など

〇正しく捨てる、そして資源循環（Correct disposal with better recycling）
・家電製品を廃棄する際はリチウムイオン電池の使用の有無を確認する
・メーカー回収や自治体の回収区分等の廃棄方法を確認する など

https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2026fy/prs260715.html

〇2025 年 8 月 28 日発表資料
備えただけでは、憂いあり
～ライフライン停止時に活躍する製品で気を付けるポイント～

災害時に活躍する製品として、“ガス”供給停止時の代用製品としてカセットボンベ等、“電気”供給停止時の代用製品として携帯発電機、ポータブル電源等についてそれぞれ気を付けるポイントを紹介しています。

■“ガス”供給停止時の代用製品

〇カセットボンベ等
・経年劣化に注意する。
・カセットボンベ等を機器に正しく装着し、ガス漏れがないか確認する。
・カセットボンベ等が異常に熱くなるような誤った使い方はしない。
・カセットボンベ等は使用機器から取り外し、室内の 40℃未満の場所に保管する。

■“電気”供給停止時の代用製品

〇携帯発電機
・携帯発電機は屋内では絶対に使用せず、屋外の風通しの良い場所で使用する。

https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2025fy/prs250828.html